

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-103	高等学校	地理歴史科	地図	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
46 帝国	地図-703	標準高等地図		

1. 編修の趣旨及び留意点

●グローバル化や情報化、少子高齢化などの社会の急速な変化を捉えながら、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を育成できる地図帳を目指して編修した。特に、これからの社会を生きていく高校生に対し、“現代社会の諸課題についての的確に捉え、持続可能な社会に向けて主体的に考え、行動する力”が育成できるように留意した。

2. 編修の基本方針

●教育基本法第2条に示される教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

1. 大きな紙面で現代社会について端的に捉えることができる地図帳

- ・ A4判のワイドな紙面で基本図・資料図を中心に鳥瞰図や都市図など、さまざまな表現の地図を掲載し、世界・日本各地の現状をわかりやすく捉えられるようにした。
- ・ 基本図・拡大図ページを中心に地図の読み解きを促す「読図のヒント」コーナーを随所に設け、地理的な見方・考え方を働かせながら課題に取り組むことができるようにし、「地名解説」では各図において重要な地名を学習に資する観点で深められるようにした。

2. 現代社会の諸課題の解決に向けて主体的に考えられる地図帳

- ・ テーマ別資料図ページでは現代の諸課題に関して考えられる複数の図版を掲載し、「SDGsのヒント」で持続可能な社会の実現について主体的に考察できるようにした。
- ・ 自然災害と防災や、地図と地理情報システム(GIS)の進化と社会への活用を考える特集ページを設け、これからの時代を切り開く素地を養えるようにした。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ●日本・世界の自然、産業、歴史など、様々な情報を地図上で幅広く取り上げ、空間認識をともなった幅広い知識や教養が身につくように配慮した。(第1号) ●地図帳の随所に地理的な見方・考え方を働かせる問い「読図のヒント」を設置し、生徒が主体的に地図を読み取る力を身につけられるようにした。(第2号) ●二次元コードを随所に配置し、ウェブコンテンツを活用して理解を深められるようにした。(第2号) ●テーマ別資料図ページには「SDGsのヒント」を設け、複数の地図やグラフから持続可能な社会に関して考察できるようにした。(第3号) 	本書全体 p.113-146
世界の国々	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の全ての国の位置・国名・首都名などを端的に把握できるようにした。(第1号) ●おもな国の国旗を掲載し、国旗への関心が高められるようにした。(第5号) 	p.1-3

GIS, 地図投影法, 地図の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●地図の成り立ちや GIS の役割や有用性を示し, 地図や GIS を目的や用途によって適切に選択する力を養えるようにした。(第 1 号) 	p.4- 5, p.159-160
世界の基本図・拡大図・都市図	<ul style="list-style-type: none"> ●基本図で国名や基礎的な地名, 自然地域名称などをしっかりとおさえ, 拡大図でさらに詳細な地名や自然地域名称を確認できるよう配慮した。(第 1 号) ●紙の地図帳の長所である一覧性・俯瞰性を活かし, グローバルの時代に適した世界を広く捉える図取りの地図を随所に配置した。(第 5 号) ●「世界自然遺産」, 「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を配し, 環境への関心が高められるように配慮した。(第 4 号) ●同縮尺・同緯度の日本図を随所に用意し, 日本との位置関係や大きさを比べながら世界を学べるよう配慮した。(第 5 号) ●「地名解説」では各図郭内において重要な地名を学習に資する観点でより深められるようにした。(第 1 号) ●中国やヨーロッパの都市図では歴史に特化した地名解説を掲載し, 都市図内で歴史的な出来事を確認することで, 歴史をより身近に感じられるようにした。(第 5 号) 	p.7-12, 15-31, 33-38, 41-64, 67-82 p.17-18, p.45-46
世界の鳥瞰図	<ul style="list-style-type: none"> ●中国・ヨーロッパ・北アメリカでは迫力ある鳥瞰図を設け, 地域の姿をより具体的・視覚的に捉えられるようにした。(第 1 号) ●地域のようにすを地図と併せて視覚的に捉えられるように, イスラエル, パナマ運河の鳥瞰図を一新した。また, アルプスとグランドキャニオンの鳥瞰図を新設した。(第 1 号) 	p.13-14, 39-40, 65-66 p.32, 50, 70, 71
日本の基本図・拡大図・都市図	<ul style="list-style-type: none"> ●基本図で日本の位置や 47 都道府県, 主要な都市などをまずはしっかりとおさえ, 拡大図で各地方の詳細な地名や自然地域名称を確認できるよう配慮した。(第 1 号) ●「世界自然遺産」, 「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を配し, 環境への関心が高められるように配慮した。(第 4 号) ●地域の生活・文化にとって重要な旧市町村名について, 字名で記載した。(第 5 号) ●「地名解説」では各図郭内において重要な地名を学習に資する観点でより深められるようにした。(第 1 号) ●都市図内に活断層の分布と標高 0 m の等高線を追加し, 活断層や海面下にある地域をより具体的に確認できるようにし, 総合的に地域の防災を考察できるようにした。(第 4 号) 	p.83-112 p.87, 89, 91, 94, 99-100, 105-108, 111
テーマ別資料図	<ul style="list-style-type: none"> ●世界や我が国の国土の自然環境の幅広い知識と教養を身に付けるため, これらの内容を系統的におさえられる資料図を豊富に掲載した。(第 1 号) ●自然災害・防災の特集ページを設けて, 日本の自然災害や防災について被害状況がわかる地図やハザードマップなどを掲載し, 複数の地図を比較できるようにした。また, 過去の災害に対し先人が行ってきた防災対策や, 災害を予測し注意を促す地図を掲載し, 自然災害に備えることの大切さを学べるようにした。(第 3 号) 	p.113-146 p.125-126

<p>テーマ別資料図 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題に関する特集ページを設け、様々な環境問題の分布や原因、各地での現状を把握し、環境保全に向けての意識を高められるよう配慮した。(第4号) ●農林水産業や工業、貿易や経済、通信や観光を捉える資料図掲載し、社会を支える産業への理解を深められるようにした。(第2号) ●食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題、紛争など、現代社会が抱える諸課題を読み取れる資料図を多く配し、これらの諸課題の背景などを考えられるようにした。(第3号) 	<p>p.127-128</p> <p>p.129-146</p> <p>p.129-146</p>
<p>統計資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●世界・日本とも統計資料を充実させることで、数字に裏付けられた世界・日本の姿、位置づけを理解できるようにした。(第1号) ●持続可能な社会を考える統計資料コーナーを設け、具体的な数字からSDGsの各目標達成までの道のりを考えられるようにした。(第3号) 	<p>p.147-158</p> <p>p.155-156</p>
<p>日本の位置とまわりの国々</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の領土・領域や排他的経済水域を正しく掲載するとともに、日本の東西南北端の写真や、日本固有の領土に関する資料図も配することで、近隣諸国の中での日本の位置や、領土の広がりを理解できるようにした。(第5号) 	<p>p.171-172</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. すべての生徒に読みやすい地図帳
 - ①色覚に特性がある生徒でも識別しやすい色を使用した。
 - ②国名や首都名など重要な地名や統計資料の書体は、可読性の高いユニバーサルデザインフォント(UD フォント)を使用した。
2. 環境に優しい素材と堅牢な造本
 - ①紙は環境に優しく裏写りがしないものを使用した。
 - ②インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするものを使用した。
 - ③長期の使用に耐えられるよう、本の綴じ目を糸かがりした上で糊付けし、丈夫に製本した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-103	高等学校	地理歴史科	地図	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
46 帝国	地図-703	標準高等地図		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●社会的な事象の地理的な見方・考え方を働かせて課題を追求したり解決したりする学習を通し、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を育成できる教科書となるよう、以下の点に配慮した。

1. A4判のワイドな判型を採用し、より見やすく編修した基本図

- ・A4判の大判サイズを活かした大きく見やすい地図で、世界の全地域をとりあげた。
- ・世界、日本とも、標高ごとに配色する等高段彩表現で統一した。鮮やかな緑色、明るい茶色など特別に配合したインキを用い、より見やすい配色を心がけた。
- ・作業を伴う具体的な問い「読図のヒント」を随所に設置し、地理的な見方・考え方を働かせながら地図を読み取ることができるようにした。
- ・「地名解説」では、基本図や拡大図において、それぞれの地域を捉えるうえで重要な地名を選択して解説し、学習の一助となるようにした。“自然”、“産業”、“歴史”、“社会”の4つのカテゴリーに分類し、地理歴史科、公民科にまたがって活用できるように配慮した。
- ・日本全国を適切な縮尺の地図で網羅した。日本の国土の空間的な広がりや、都市の分布などを捉えられるようにした。
- ・日本の領土や排他的経済水域などが学べる地図や、日本の北端から西端までを連続して見渡せる500万分の1の日本列島の地図から、日本の国土の空間的な広がりを理解できるようにした。

2. 生徒の興味を引く鳥瞰図、都市図をさらに充実させた地図帳

- ・中国・ヨーロッパ・北アメリカには立体的に地形を捉えられる鳥瞰図を設けた。図中には生活、産業、著名な建築物などイラストを配して、地域の特徴を概観できるようにした。
- ・都市の様子をつかめる都市図を充実させた。世界21都市、日本13都市の都市図を掲載し、p.17~18 中国、p.45-46 ヨーロッパの都市図では地名解説の内容を、近現代史を中心とした“歴史”に特化することで、歴史総合と関連付けて都市を舞台にした歴史について興味をもって学べるようにした。

3. テーマ別資料図から現代世界の諸課題を大きく捉えることができる地図帳

- ・p.4にSDGsの17の目標を全て掲載することで、引き出して活用ができるように工夫した。
- ・巻頭の見開きにGIS(地理情報システム)の特集ページを新設した。地図の進化、GISの仕組みや事例、防災分野での活用などを通して、最新のGISの有用性を理解できるようにした。
- ・資料図ページでは、自然環境や地球環境問題、自然災害と防災、資源、産業、交通・通信・観光、人口、生活文化、民族・宗教を中心にテーマ別に地図やグラフを一見開きにまとめ、複数の図から各テーマについて考えられるようにした。
- ・SDGsに関連する考察を促す「SDGsのヒント」コーナーをおもな見開きに設置し、図表から持続可能な社会を考えられるようにした。
- ・二次元コードを随所に設置し、ウェブコンテンツを活用して学習が深められるようにした。

4. すべての生徒への見やすさを追究した地図帳

- ・色覚に特性がある生徒でも色を判別できるよう、色彩表現を工夫した。また、色彩だけでは判読が難しい場合は、模様を入れるなどして判別しやすい表現を追究した。
- ・タイトルやインデックス、世界の国名や首都名、日本の地名にユニバーサルデザインフォントを採用し、すべての生徒に見やすく読みやすいよう配慮した。

2. 対照表				
図書の構成・内容	構成・内容の特色	学習指導要領の内容		該当箇所
		地理総合	歴史総合	
世界の国々	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大陸や海の分布，我が国の国土や国々の位置関係，を大きく捉えることができる。 EU や ASEAN などの地域機構を掲載しており，国家間の結びつきを一覧することができる。 日常生活で用いられる世界の地図や国旗が，世界の歴史とつながっていることを理解することができる。 	A(1) B(1)(2)	A(1)C(1)	p.1-3
GIS	<ul style="list-style-type: none"> GIS が社会の様々な場面で役立っていることを示し，有用性を理解した上で目的に応じた活用を促すことができる。 GIS を活用して，立地や防災を考えられる資料図を掲載し，地理的な諸課題や将来の国土の在り方を探求・構想するための手法を理解することができる。 	A(1) C(1)		p.4-5
世界の基本図・拡大図・都市図	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな図法，縮尺の地図を掲載しており，目的に応じて活用することができる。 港湾・空港などの施設，道路や線路・航路をわかりやすく示しており，交通網の分布や交通機関による結びつきなどを読み取ることができる。 特徴的な自然地形名を地図中に表記しており，その地形がみられる場所の地理的環境を考察することができる。 世界と日本の位置関係や，各国の独立の動きなどを現在の地図と共に理解することができる。 	A(1) B(1)(2) B(1)	A(1)(2) B(2) C(2)(3)	p.7-12, 15-31, 33-38, 41-64, 67-82
世界の鳥瞰図	<ul style="list-style-type: none"> 中国・ヨーロッパ・北アメリカには見開きで鳥瞰図を新設し，地域の特徴を概観したり基本図と比較しながら地形を読み取ったりできる。また，図内に配置されたイラストから生活・文化とのつながりを考察することができる。 今も現存する歴史的な遺産などのイラストを配置し，現在と歴史のつながりを確認することができる。 イスラエル，パナマ運河の鳥瞰資料図や，アルプスとグランドキャニオンの鳥瞰資料図を設け，地域のような地図と併せて視覚的に捉えることができる。 	B(1) B(1)	A(1)	p.13-14, 39-40, 65-66 p.32, 50, 70, 71
日本の基本図・拡大図・都市図	<ul style="list-style-type: none"> 日本全国を適切な縮尺の地図で網羅し，日本の国土の位置や空間的な広がりや，都市の分布などを捉えることができる。 京阪神と名古屋，東京の大都市圏は縮尺 50 万分の 1 の拡大図を，福岡市や仙台市など各地方の重要都市は都市図を掲載し，都市圏や通勤圏などの地域構造を捉えることができる。 港湾・空港などの施設，道路や線路・航路をわかりやすく示しており，交通網の分布や交通機関による結びつきなどを読み取ることができる。 特徴的な自然地形名を地図中に表記しており，その地形がみられる場所の地理的環境を考察することができる。 	C(1)(2) C(1)(2) C(1)(2) B(1)	A(1)	p.83-112

図書の構成・内容	構成・内容の特色	学習指導要領の内容		該当箇所
		地理総合	歴史総合	
日本の基本図・拡大図・都市図 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> 縮尺100万分の1拡大図内に旧国名を併記することで、近代化以前の国土のようすと現在を地図上で結びつけて考えることができる。 都市図上に活断層、標高0mの等高線を追加することで、より身近に防災の意識をもつことができる。 	C(1)(2)	B(1)(2)	p.87,89,91,94,99-100,105-108,111
テーマ別資料図	<ul style="list-style-type: none"> 世界や我が国の国土の自然環境の幅広い知識と教養を身に付けるため、これらの内容を系統的におさえられる資料図を豊富に掲載した。 SDGsのヒントをおもな見開きに設置し、複数の地図やグラフの読み取りから持続可能な社会を考えられるようにした。 新旧の地図を二図比較し、防災に関する問を設置するとともに、自然災害の写真に掲載することで、地形や気候など基礎的な学習の中においても自然災害に関して考えられるようにした。 自然災害と防災に関する特集ページを設置し、同じ地域の地形図とハザードマップを比較して読み取ることで、地域性をふまえた防災の重要性について考えることができる。 農林水産業や工業、貿易や経済、通信や観光を捉える資料図を掲載し、社会を支える産業への理解を深めることができる。 環境問題、食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題など、現代社会が抱える諸課題を読み取れる資料図を多く配し、これらの諸課題の背景などを考えることができる。 グローバル化に伴う地域経済統合のつながりを地図で確認するとともに、日本を含む世界経済の進展を複数の地図から確認することができる。 	B(1)(2) C(1)(2) B(1)(2) C(1)(2) C(1)(2) C(1)(2) B(1)(2) B(1)(2)	D(4)	p.113-146 p.113-124 p.125-126 p.127-146 p.137-140
統計資料	<ul style="list-style-type: none"> 世界197か国すべての国の正式名称、主要な統計、情報を見開きで掲載しており、現代世界を系統地理的・地誌的に考察することができる。 世界の主要な国を取り上げ、それぞれの国とその国旗についての概要を掲載し、国際理解をより深められるように配慮した。 「持続可能な社会を考える統計」を掲載し、SDGsに関して具体的な数字から考察することができる。 	B(1)(2) C(2) B(1) B(1)(2)		p.147-158 p.147-154 p.155-156
地図投影法と地図の歴史	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな図法の特色や用途を体系的に示し、地図の役割や有用性を理解することができる。 インターネットにおける地図サイトの活用例を示し、課題を探究する際の手法として活用することができる。 歴史的な地図資料や、近代化における地図製図技術の発達などを確認し、地理と歴史への関心を高めることができる。 	A(1) A(1)	A(1)(2) B(1)	p.159-160 p.160
都道府県、古代の行政区分、日本の位置とまわりの国々	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県と古代の行政区分を併せて確認し、日本の近代化に伴う変化をつかむことができる。 日本の国土が大小多数の島々から構成されていることが理解することができる。また、竹島や北方領土、尖閣諸島な 	A(1)	B(2)(3) B(3)	p.170 p.171-172

(続き)	どについては、位置と範囲を拡大図や写真とあわせて確認することができる。			
------	-------------------------------------	--	--	--